

Aomori Port Office Mail Magazine — Vol.4

~Spring~

■弘前城築城 400 年の歴史が息づく園内に 2600 本の桜が咲き誇る

日本の春を代表する花と言えば桜、その桜の名所として全国的にも有名なのが青森県弘前市の「弘前公園」です。4月下旬から5月上旬ごろの開花時期に合わせて、日本屈指の「弘前さくらまつり」も開催され、毎年約200万人もの人々が訪れ、園内は桜の下で賑やかに宴をする花見客や、美しさの余韻に浸りながら闊歩する花見客で埋めつくされます。

弘前公園は、400年前に築城された弘前藩の城郭の跡地で、広さは約49ha。今も天守閣をはじめ、5棟の城門（じょうもん）と3棟の櫓（やぐら）が残り、堀も水をたたえて健在です。

ここにソメイヨシノを中心に53種、およそ2600本もの桜が植えられています。満開時には、石垣に建つ天守閣をはじめとする弘前公園の全体が桜の花に彩られ、また、お堀の水面は散った花びらで埋め尽くされる様なども美しく、どこを切り取っても歴史が息づく光景が繰り広げられます。



■ 33の禅寺が立ち並ぶ「禅林街」、禅寺での座禅体験もOK

城下町・弘前市は、多くの寺院があることでも知られています。その中でも弘前公園の西南に位置する「禅林街（ぜんりんがい）」は、曹洞宗（そうとうしゅう）の33の禅寺が集まる寺院街として人気があります。

ここは弘前藩2代藩主の津軽信枚（のぶひら）が、1611年の弘前城築城の翌年、宗教文化の統一を図るほかに、弘前城の南を要とする城の守りを固めるために、津軽一円から曹洞宗の寺院を結集させたことで誕生しました。津軽家の菩提（ぼだい）寺である長勝寺（ちょうしょうじ）を頂点に、禅寺がずらり建ち並び、情緒溢れる街並みと地元の信仰の拠り所であったことを感じさせます。

最近では、ここ禅林街の禅寺で、禅宗の修行法である座禅を体験する観光客も増えています。座禅を組み静寂の中で心を清め、無私の境地へと導かれるのも、古都・弘前ならではの旅の楽しみ方のひとつです。（座禅体験の詳細は、弘前観光コンベンション協会／電話 0172-35-3131 まで）



■肉厚で甘いホタテ、加工品も豊富でお土産にも最適

青森県は三方を太平洋、日本海、陸奥湾に囲まれていることから、多様な魚介類が水揚げされます。加えて養殖業も盛んで、ホタテ貝の収穫量は北海道に次いで全国2位を誇っています。

陸奥湾には、八甲田山系から、ホタテ貝の餌となるプランクトンを育てるミネラルを豊富に含んだ水が注ぎ込まれます。このため他の産地のホタテ貝に比べて貝柱が厚く、甘味と特有の香りを持っていることから、食材としても人気が高く、寿司、刺身、天ぷらといった和食はもちろん、スープ、ムニエル、コキール、さらには中華料理にもよく使われるなど、調理方法もバリエーションに富んでいます。

食材として優れたこの陸奥湾のホタテが、青森ではほぼ1年を通して食べられます。また、干し貝柱などの加工品の種類も豊富です。ぜひ青森県へお越しの際には、新鮮な青森県産のホタテ貝をご賞味下さい。

